

風のように

甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一



わたしは、昼も夜も祈りの中で絶えずあなたを思い起こし、先祖に倣い清い良心をもって仕えている神に、感謝しています。

Ⅱ テモテへの手紙1:3

使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。

ルカによる福音書17: 5～6

【説教要旨】

10月31日、私たちルーテル教会にとって、宗教改革記念日という特別の月です。宗教改革者ルターが影響を受けたパウロの書簡から「Ⅱ テモテへの手紙」を通して、み言葉に触れていきましょう。

私たちが生きているこの時代は、近代が終わり、大きな変化が日々の中で胎動し、急激なインターネットなどの発展でIT時代、情報社会に投入し、人工知能（AI）は社会を大きく変化させています。生きるのに私たちは、苦慮しています。

科学技術の大きな発展により不死さえ手に入れようとして、神は沈黙し、人間至上主義ということが起きています。また同時にコンピューターの技術発展は、特にインターネットの発展は、瞬時に情報を得て、情報を発信出来ます。そこで、どう生きるかということを私たちは問うて苦しんでいる時代です。「とはいえ、新たな形で考えて行動するのは容易ではない。なぜなら私たちの思考や行動はたいてい、今日のイデオロギーや社会制度の制約を受けているからだ。」（『ホモ・デウス』のユヴァ

ル・ノア・ハラリ著）とあるように私たちは容易でない時代を
生きています。さらに神は沈黙し、人間至上主義という中で、
信仰をもって生きるとはどういうことかー「とはいえ、新たな
形で考えて行動するのは容易ではない。」ーさらに容易でないこ
ろを生活しているのです。

「そして、あなたが抱えている純真な信仰を思い起こしています。

1:5」とパウロは言います。では、「純真な信仰」とは。

ルターは、「信仰とは、神の恵みに対する（私たちの）生きた
大胆な（神への）信頼である」と言っています。「つまり信仰と
は、そもそも人間の働きではなく、まず第一に『神の働き』で
ある。すなわち信仰は、神が人間に与えたもうたものである。
そして、次に初めて第二に神の働きを受けとめる『人間の働き』、
すなわちわれわれ人間の神への信頼・確信なのである」（「宗教改革
500年とポスト近代 ルターの脱構築」江口再起著）

私たちが生活している日々にあって、容易でないことにぶつか
っています。幼稚園の現場でもこの10年と今では子ども自身、
子どもを取り囲む環境は大きく変化し、今までの教育・保育理
論だけでは対処出来ない容易でない日々を保育者は生活して苦悩
しています。確かに多くの保育知識、技術を容易に一気にコン
ピューターはくれます。データです。しかし、それだけでは解
決出来ない現実があります。

信仰は、神が与えてくださったものであるという受動性に立
つ者は、今、置かれている容易でない状況を神が与えてくださ
ったことと受けとめる能動性を持つ。容易ではないが、ここに
神は働いておられるという神への信頼・確信は、容易でない状
況に立ち向かう勇気をいただきます。

そういうわけで、わたしが手を置いたことによってあなたに与
えられている神の賜物を、再び燃え立たせるように勧めます。
神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわた
したちにくださったのです。

「とはいえ、新たな形で考えて行動するのは容易ではない。な
ぜなら私たちの思考や行動はたいいてい、今日のイデオロギーや

社会制度の制約を受けているからだ。」という時代を生きているところで信仰は役割をおえたのでしょうか。いや、生きていくのに容易でない私たちは、それはある意味で苦しみ、苦悩があります。しかし、信仰はこの苦しみ、苦悩を神の恵の下でいきっていることを教えられます。

苦しみと苦悩にあって、恐れを感じつつも「神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。」「挑戦（構築）に乗り出しえるのである。情熱的（Passion）でありうるのである。畏怖と挑戦（構築）。つまり、その時こそ、真実に能動的にたりうるのである。受動的であるゆえに、むしろ能動的であることができる。『それでもりんごの木を植える』ことができるのである。『たとえ明日が終るとしても、それでも今日わたしはりんごの木を植える』。ここには、神の恩寵に対す根本的な受動性と、その受動性における能動性の調べが響いている。受動的能動性。これこそが、ルターの人間理解である。ここに終わりつつ近代を生きるわれわれが、明日をみる希望の光がある」（「宗教改革500年とポスト近代 ルターの脱構築」江口再起著）

私たちは今の時代だからこそ、悔い改める。自分の生活だけに埋没するのでなく、神に向かうことです。しなければならないこと、「たとえ明日が終るとしても、それでも今日わたしはりんごの木を植える」勇気を神に与えられます。

この福音のために、わたしは宣教者、使徒、教師に任命されました。そのために、わたしはこのように苦しみを受けているのですが、それを恥じていません。というのは、わたしは自分が信賴している方を知っており、わたしにゆだねられているものを、その方がかの日まで守ることがおできになると確信しているからです。キリスト・イエスによって与えられる信仰と愛をもって、わたしから聞いた健全な言葉を手本としなさい。あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。

今こそ聖霊に導かれた時代を生きています。神に向かおう。

牧師室の小窓からのぞいてみると



聖書は、歴史書であり、歴史から今を生きることを学ぶのです。それは、歴史が教えることは、歴史から学ぶことをしない神の民がいるからです。だから、繰り返し、繰り返し語るのです。

現在、アメリカで起きている暴政は、かつての「赤狩り」を彷彿させます。チャップリンは、アメリカから自由を求めてイギリスに逃げたことを忘れていません。

作家・五木寛之さんは、日本の歴史からひもといて、昨今の外国人排除を諫め、積極的に受け入れることを言われている。この時期にこのことを言うのは勇気のいることである。私たち日本は外国からの帰化人を受け入れることにより日本文化を作っていました。

排斥するのではなく、対話していくことが必要ではないでしょうか。芥川龍之介は、大正時代、西洋文化を受け入れていく中で日本文化が失われるのではないかと不安をいだいた一人でした。「神々の微笑」で、「我々の力というのは、破壊する力ではありません。造り変える力です」という。私たちは日本化していく力をもつことを歴史から学ぶべきです。西洋に毒されず、日本化です。五木寛之さんが言われるように積極的に外国文化を受け入れ、芥川龍之介が言うように日本化していくことだと。

園長・瞑想？迷走記



今週は体調が悪く、園になかなか行けなかったが、体調の良い時に少しの時間でも行くと、園庭、保育室の風景、わずかの時間の教職員と対話が出来て癒された。預かり保育で残っている子どもたちを見て、子どもたちの様子、顔、顔は何よりも癒された。

早く、体調が回復されていきたいものである。そして、いつものようにちょこっと座っていたい。

日毎の糧

聖書：【ダビデの詩】

悪事を謀る者のことでいら立つな。

不正を行う者をうらやむな。

詩編37：1



ルターの言葉から

私たちは神を畏れ、愛するのだ。だから私たちは隣人から財産を策略して、また無理やり奪ったりしないで果たすべきことを行うよう、彼らに勧めるのだよ。

『小教理問答M.ルター著』、十の戒めまとめ

束の間

この詩編は、「アルファベットによる詩」ということで分かるように信仰の教育的目的をもって、詠ったものと思われる。その教育の対象は、「悪事を謀る者のことでいら立つな。

不正を行う者をうらやむな。」とあるように、虐げられた、貧しい、弱い人、教育の機会を失った人であった。

そういう人がどう生きるかということを詩で歌って教育したのである。知恵文学として何が真実な知恵であるかを教えた詩であり、詩篇の特徴が表れている。

37:2 彼らは草のように瞬く間に枯れる。青草のようにすぐしおれる。37:3 主に信頼し、善を行え。この地に住み着き、信仰を糧とせよ。

この地上のものは、空なるものであり、儚い、束の間のものであると語りかけてくるのである。だから、歴史に語りかける聖書は、アーメン（ダイヤモンドように固い真実）、37:3 主に信頼し、善を行え。この地に住み着き、信仰を糧とせよ。と語りかけてくださるのである。今の時代、まさに悪が満ちている。しかし、主にあって堅く立つことこそがすべてである。

祈り：今のこの世のものは、儚い、束の間である悟る知恵をください。あなたに委ねていく私たち一人一人にしてください。

甘木通信

コヘレトから「すべては空・へベル」



私の好きな牧師にD牧師がいた。先生がいるだけでもこちらが幸せになる。先生と先生のお父さんの武勇伝は、笑いこけながらお父さんを尊敬している先生の気持ち伝わってくる。先生を信仰に導いたのが北海道・池田町の教会の牧師、吉田康登牧師である。名曲教会讃美歌213、「朝露に輝き咲ける野の花は、さやかにたたう み神のさかえ」の作詞者である。戦後、浦幌町に入植し、その後、池田町に教会を作りました。そんな自然と一緒に生活する日々の中でイエスさまの言葉、「明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる」を讃美歌にされたのです。実に美しい讃美歌です。

「イエスは、明日はわからぬ儚い命の野の花を指差して、思い煩うのはやめよと説きます。『思い煩ったからといって、寿命を僅かでも延ばすことができようか』の『寿命』を『へベル』と置き換えてみてください。意味がよくわかるでしょう。思い煩おうと煩うまいが、人生はへベル。コヘレトがソロモンの名を借りて『すべては空である』と語ったことを、イエスもまたここで語っているのです。人生はへベルだけれども、束の間だけれども、その命をイエスは少しも否定的に考えません。むしろ、何よりも美しく、掛け替えのないものと考えます。」

（それでも生きる 旧約聖書 『コヘレトの言葉』 小友聡 NHK 出版）尊敬するD牧師は70歳の定年を前に帰天された。へベル・束の間をよく生きた人だった。

（甘木日記）日）私が倒れた時の式文を使って礼拝。小さな子ども二人。月）病院に行き、午後、羽村幼稚園のzoom会議。火）経営コンサルタントzoom会議。気になり、夕刻、園に行き状況を聞く。子どもらも元気でほっとしている。水）主任も、設置者も体調が悪いと言うので急遽、朝から園にいる。主任は体調が悪い中をわざわざきてくれてほっとする。木）朝に保育園に行き、午後は大学病院で診察と検査後、幼稚園に帰る。金）午前中は園に行き、午後、結婚式出席のために東京へ。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。 ぐちらない聖人（牧師）もいます。



日）朝来ると芝が刈られている。また、今日も久留米まで送迎をいただく。ありがたい。礼拝は二人の賑やかな可愛い子どもと楽しい礼拝が出来る。私が倒れた時の礼拝式文を使って礼拝をする。説教が長かったかな。月）朝、土曜日に白いウंचीが出たが、大学病院は様子をみてくださということだった。ホーム・ドクターが気にかけてくださり、血液、CT 検査をする。親切に看ていただく。感謝。年金相談のために事務所に予約に行く。長男が、夕刻に大阪来てくれて、「デジタル終活」、「預金、保険」、「今後の老後設計」などを伝える。その過程で家内が婦人之友の会会計簿を使用していて、我が家の財産を目で見えるようにしていることが分かり、流石、婦人之友の会と感心する。羽村幼稚園の zoom 会議。激変する幼稚園現場にあって、どう教育・保育、運営をしていくかということ。火）幼稚園の休みをいただいている。朝は昨日の羽村幼稚園の運営委員会の議事録作成のための zoom 会議。その間、終活のために長男に手伝ってもらって本の整理。段ボール五箱を捨てることが出来る。午後から日善幼稚園の今後について、経営コンサルタントと zoom 会議。幼稚園が気になり、夕刻、園に行く、子どもらも元気でいてくれて、ほっとして、明日からウィンドウ 11 になるので用心のためにアップグレードされていないパソコンはインターネットにつながらないように注意して職員に送られて帰宅。助かる。終活を手伝いに来てくれた長男とゆっくりと食事をする。小さい時から沢山、長男に助けられた。愛しくなる。水）主任も、設置者も体調が悪いと言うので急遽、病気療養中だが、朝から園に行く。主任は体調が悪い中をわざわざ来てくれてほっとする。少し調子もよく、大阪に帰る長男と昼休み食事をする。午後から職員会議。職員会議も終わり、早く帰宅する。木）今日まで熱もあがらずホットしている。午前中は松崎保育園に行き、聖書の学び、子どもの礼拝をする。礼拝後、職員室に来てくれた園児が、「楽しかった」と一言をいただく。最高のご褒美。何を話したかという「少年ダビデ」のこども讃美歌を使って。「少年ダビデ」の讃美歌は最高。午後、園に帰り、13 時に大学病院に診察、検査のために抜ける。入院かどうかは先送り。「このまま熱も出ずに」と祈る。金）午前中は園に、午後から名付けた子どもが結婚。結婚式に招待され東京に。こんな嬉しいことはない。熱が出ずに体調が守られますように。

